

～社会復帰について～ エピソード3

人気連載

35年の刑期が過ぎ、なぜ出所できたのかと度々聞かれることがあります。受刑生活20年を過ぎた頃に心に変化がありました。刑務所で見える景観に、[未来は、人類が共通に持つ思いが描かれて行くのだな]と感じたことです。人は全て共通する思いが有りそれが未来を作り続けて行くのならば、私もその道入って生きて行けば、たとえ肯定されなくても否定されないのではと思いました。その時に感じた共通する思いとは、子孫代々受け続いて来た親子の愛情、他人に対しての思い遣りの心、これは誰にでも在るのではないのでしょうか。山あり谷ありの歴史があっても、全ての人々が共通する思いが未来を作っていくのです。其れから私は、自分自身の過去を見つめ直す様になりました。身近に生活を共にする人、社会の人々を歴史を通し考えました。人の不幸を考える日々が続きました。(夢庵)

★お役立ち情報★

住宅事情ver2 [中間施設]

長期間にわたり刑務所や精神科病院などを利用した人が、そこよりは管理的でない環境で過ごし一般の社会生活に適応できるように準備をする施設で、更生保護施設・自立準備ホームなどがあります。仮釈放の場合は、保護観察対象者として、満期釈放の場合でも本人の希望に応じて更生保護施設が使えます。期間は6ヶ月、特に必要があると認められた時は更に6ヶ月以内の延長が可能です。更生保護施設を希望しても、地域、罪状や状況、施設の利用状況等によって利用できないこともあります。その場合でも、申請することにより生活保護による支援を受けることができます。怪我、病気、障がい等で働けそうにない場合でも、その人に合わせた医療、福祉制度を利用し、デイケアなどの施設で社会生活の準備をすることができます。詳しくは帰住予定地の更生保護施設や役所の福祉課などにお問い合わせください。連絡することで社会生活が円滑になっていくと思います。
参考資料 <https://www.moj.go.jp/content/001236860.pdf> (風水)

質問コーナー!!

- * 今ちょっとがんばってること
- * 受刑中嬉しかった・楽しかったこと
- * 私の推し(憧れ&好きな人)は?
- * 「ほっこり通信」へのご要望・ご感想



お返事待って
ま〜す!

質問コーナーへの回答、結果発表!!

<マイブーム>

料理のレシピ本を読むこと。特に料理が好きだった訳ではないが、今ハマってます。

<おすすめ本>

『〇〇県の歴史散歩』 山川出版社 1,320円(税込)
各都道府県別に出版されていて、自分の住んでいた地域の歴史を知ることができ面白い。

『FACT FULNESS』 ハンス・ロスリング他著 日経BP社 1,980円(税込)
様々なデータに基づき、人々が考えていることと事実の溝を埋めていくことを習慣化させようとする本。世界で300万部の大ベストセラー(編集部追記)

『ママがもうこの世界にいなくても 私の命の日記』 遠藤和 著 小学館 1,650円
末期がんを宣告された21歳の女性が、結婚・出産し、24歳で亡くなるまでの愛の記録。テレビ番組「笑ってコラえて」で紹介され反響を呼んだ。生きていることのありがたさ、母親の強さを改めて考えさせられた。

<ほっこり通信へのご要望>

収容者にとって本は最大の楽しみなので、今後も皆さんのおすすめや、社会で話題の本を紹介してもらえたら嬉しいです。

監獄人権センター家族&友人部からのお知らせ

- ・今回の秋号より、ほっこり通信は、監獄人権センターのホームページに掲載されます。
- ・皆さまからのお便りは、ほっこり通信に掲載させていただく場合があります。個人情報には十分配慮いたしますが、掲載不可の方は、その旨お知らせください。
- ・ほっこり通信は、春と秋に発行していますが、CPRニュースレターと共に発送いたしますので、タイミングによっては、お届けが遅れる場合があります。ご了承ください。

☒ お便り紹介コーナー ☒

全国からたくさんのお便りをありがとうございました! 今回は暑中見舞いの“花火”にまつわる思いをお寄せいただいたものも多かったです。全部ご紹介できず残念ですが、一部抜粋してご紹介します(▽)/

- ・今回のほっこり通信は、内容も増えていてとても良かったです。心がほっこり楽しくなり、毎日の苦しい日々を、忘れさせてくれます。(Sさん)
- ・「家族&友人部」は、私のような獄中者、出所したばかりの人、突然獄につながれ途方に暮れている人などの大きな支えになってくれるものだと思います。今後もよろしく願います。(Sさん)
- ・質問コーナーの回答を見ると、他の施設の収容者も私と同じようなことを考えたり感じたりしているのだなあ、なんて思いながら読ませてもらっています。(Kさん)
- ・春号に「賃貸住宅を借りるための保証会社」が載っていましたが、とてもためになりました♡(Wさん)
- ・8月に出所を迎えることになりました。年2回届くお葉書に心癒され、皆様の活動一つ一つが励み支えになり、今日まで頑張ることができました。私も受刑者に寄り添えるような活動をしたいと思っています。これからも受刑者のよき理解者として、この活動を末永く続けてくれることを心から願っています。(Aさん)
- ・施設の部屋の窓から、大輪の花火が僅かですが見える時があります。今年も見えるかもしれません。(Iさん)
- ・本当に久しぶりに花火の写真を見て目の保養になりました。自分は無期刑で先はまだまだ長いですが、皆さんの支えが本当に励みになっています。(Kさん)
- ・花火は大好きなので早く社会で花火をみたい、そうなるように頑張ろうという目標を持たた気がします(Yさん)
- ・子供の頃を思い出す懐かしい花火の絵ハガキ、いつも励ましをありがとうございます。(Oさん)
- ・暑中見舞いが、夜空に咲く大輪の花火と大きな音と暖かな人の温もりを運んでくれて自分の心に届きました。家族の無い自分にとってはこの花火の音は大きく響きわたりました。(Uさん)

何の変哲もない私の獄舎が、一瞬にして、遠い昔の花火大会のあの日へと誘った。それは、2023年7月25日の夕方のことだった。ヒューン、ドン! という音とともに大輪の花火がキラめいた。CPR家族&友人部から届いた綺麗な花火大会の絵ハガキに、私を案じる暑中お見舞いが…。CPRの皆さんも、この愚かな私も、誰かの俸せのために尽くしているということが、そのまま喜びにつながってゆく。皆、誰でも、仲のいい友人に何かしてあげられれば、それだけで、もう十分嬉しいことだ。大切な存在であれば、尚一層喜びが花火の様に輝くはずだ。信じるものが違っても、価値観が違っても、人間がお互いに好意を尽くし、それを喜びとして生きる姿勢ほど美しいことはないはずだ。そしてそれが本当の人間らしい人間関係だ。たった一枚の絵ハガキが私の琴線を震わした。それはとても心地いいものだった。

拙い歌を一首。『幸せに生(なる)木の種がもしあるならば 私はそれを世界に蒔きたい』(Hさん)

【編集部より】

こんにちは! 編集部クッキーです。『ほっこり通信』秋号をお届けします。今年の夏は本当に暑かったですね。皆さんからのお手紙にも、猛暑の中、悪戦苦闘しながら頑張っている様子が書かれていて、身につまされる思いでした。やっと涼しくなりましたので、おすすめ本を参考に、ぜひ読書の秋を堪能されてください(▽)/ 家族&友人部のボランティアスタッフも15名となり、ミーティングはいつもとても賑やかです! 特に募集をしているわけではないのですが「何か手伝わせて欲しい」と、仲間の輪は少しずつですが、確実に広がっています。そんなメンバーの思いが詰まった『ほっこり通信』、短い秋と共楽しんでもらえたら嬉しいです。(レイアウト:スイートポテト・編集:クッキー 他13名)